

遊びに行つて、いふ話になるので、中には祝延ばしを縁起よしとする家もあつて、在園中にこの祝に當らない子のある事も考へて、個人々々の祝には深くはいらぬようにしたいと思ふ。

第十一週

馬鹿な馬

イソップのものである。我が國幼稚園創設當初は多くイソップのものを談話材料にしてゐた。それはその頃修身はなしさがあつたので、丁度イソップの持つ教訓がむかへられた爲であらう。今ではどうもあまり用ひられないが、

まあ名残りの一つとして配當の中に入れたのである。これはごく短い話であるから、最初は先生が話してきかせるが、幼児が話してもいいと思ふ。そのために短い話をこゝに選んだのである。

第十二週

羅生門

恐ろしい腕の話として、久しい間避けてゐた。けれど一人の子の注文によつて、どうかと思ひながら話して見たら、大そう面白がつて、一度づけて話したこゝがある。この頃になるご却つて恐ろしいのに興味を惹かれるのであらう。

第八週

赤んぼ(年少組参照)

ききやう

色の形、蓄の形の特長をぬりゑをするについて注意する。

第九週

球根植ゑ

秋の秋らしい花であるから、ぬりゑをする時是非花瓶に用意したい。花の構造など詳しく述べる必要はないが花の水仙、クロッカス、チューリップ等の球根を植ゑる時期である。もう少し早い頃でもよい。春の種蒔きの時の様な

注意をし、あさ霜よけをする事も子ども達も一しょにし度
いこゝである。

こゝも面白い事であらう。

菊(年少組第七週参照)

第十週

紅葉ごおちば(年少組参照)

煙

おちば等をたいた煙の観察、何ご煙みたいな事であらう
けれど何だか味ひある情景である。うす寒い朝先生もこ
も落葉をはきあつめ、たき火する。もえる火、白い、蒼
い煙、こゝも達には斯うしたものをちつこみてほんやりし
てゐる様な時がある。それをそつこして置き度い。

第十一週

葉の落ちたあとの木

幼稚園の紅葉してた木々は殆どみんな裸になつた、少し暖い午後なご、裸になつた木をみ上げ乍ら葉のおちた後
この木は枯れてゐるのではなくて来年の春出る葉づばにこ
んなにかたい厚いきものをきせて小さくたへんでしまつて
るるごいふ様にその葉痕の側の芽を一つむいてみ乍ら話す

山茶花

お庭がすつかりさびしくなつた今、目立たない隅にこゝぼ
れ咲く山茶花の滋い美しさを子どもこ楽しみたい。
霜(年少組参照) その上に細い氷のつぶであるこことを注意
する。

第十二週

暖房装置

附屬幼稚園ではスティームが通つてゐる。さうでなくこ
もストーヴか、火鉢か、何か暖房の設備があらう、それに
注意させるのである。すぐ氣付きさうでゐてわり合に等閑
にしてゐるのであるにもつこも恩恵をうける身近いものがある。
危険を敢えてしたがるここの年頃のこゝも達だから火傷しない
様に注意してざんなししてお部屋があたゝまるか、そし
て暖いお部屋を冷くしない様にお互に氣をつけるこいふ訓
練的なこゝも當然わかる話である。